



大城 節子 議員

避難道路について

質 12月の定例会で、通称学校ヤマグラーを利用して子供達の避難路を造ってもらえないかとの質問に、津波警報発令時の高台避難路として考えていると答弁いただきました。当有地は、村有地、民有地を含む地籍、県の保安林指定等があり許可等の事務確認を行いながら事業を推進していければと考えていると答弁されたのですが、協議はされたのか。進捗状況を伺う。

答 総務課長(宮平 寛)

当初簡易的な整備を想定して進めていました。土地の形状で、進入路の選定等、整備をする上で慎重に進めていく必要があると考えています。現在、実際に専門業者とも調整は進めています。まだ具体的な工法は決定していません。村有地のみで考えた場合、

国道まで約125mの距離があり勾配がきつく村有地のみでの整備は厳しいので、更に詳細に調査を行う必要があると考えています。費用もはじき出し、整備後の管理も含め具体的に資料を揃えた段階で、地域とも相談していきたいと考えています。

防災無線について

質 仲泊の防災無線は何を放送しているのかわからないとの苦情があり、最近では公民館の屋上に設置できないかという方もいます。前回の答弁で、公民館の構造や電波障害等により移設できないとの事で納得はしたのですが、一部の地域で聞こえづらいつつ問題について、早急に設置方法、新たにスピーカーの取り付け等を考慮し整備を進めていければと考えているとの答弁でしたが、協議されたのか伺う。

答 総務課長(宮平 寛)

現在、既存の防災無線子局、仲泊団地付近になるのですが、そちらにスピーカーの増設というところで、発注済です。



護岸沿いの木の剪定について

質 仲泊の護岸沿いの道は、区民や区民外のウォーキング道、まれに車道として使用されていますが、海浜に自然に生えたユウナやワフディーサーの木の枝が伸びて道を塞いでいる状態です。台風時には民家の風よけになっていますが、区内の道幅が狭い当区で緊急車両の出入り口となっており、ゼブラゾーンも引かれています。緊急車両がスムーズに通ずるには支障をきたすと思いますが、木々の剪定について伺う。

答 建設課長(屋良 朝也)

護岸沿いの道は、建設課としても剪定は行っていますがウォーキング道とか台風時の風よけにもなっているということもありまして、幾らか陰も残さないといけないと思っています。一番大事なのは緊急車両の通行の妨げにならないようにしたいと思い、区と調整しながら剪定をしていきたいと思っています。



国道まで約125mの距離があり勾配がきつく村有地のみでの整備は厳しいので、更に詳細に調査を行う必要があると考えています。費用もはじき出し、整備後の管理も含め具体的に資料を揃えた段階で、地域とも相談していきたいと考えています。

提 前向きな答弁ありがとうございます。災害は、いつ来るかわかりません。近くのHYORRホテルも緊急避難所の協定を結ばれたという事ですので、一日も早く避難道路ができればと思います。

校門にある学校銘板について

質 うんな中学校が開校して4年目になりますが、銘板がそのままになっているので12月の定例会で質問し、当局は日付を入れた記念プレートを銘板の横に設置したいと言いました。この間、恩納村立仲泊中学校は令和2年4月1日、恩納村立うんな中学校へ統合し令和2年3月末をもって歴史に幕を閉じましたと、プレートが貼られていたが、いつ設置したか伺う。

答 学校教育課長(仲村 泰弘)

12月定例会の一般質問から、かなり日数が経過してしまいましたが、

福祉避難所について

質 福祉避難所とはどういったものなのか、また本村の現状を伺う。

答 福祉課長(石川 司)

福祉避難所は高齢者、障害者または乳幼児、その他特に配慮を要するものを滞在させることを想定した避難所として定義されています。本村においては福祉避難所の正式な設置には至っていませんが、今年度より村社会福祉協議会と協議の下、保健福祉センターを福祉避難所として試験的に運営を始めました。

質 福祉避難所設置に関する当局の見解を伺う。

答 福祉課長(石川 司)

福祉避難所の設置については急務と考えており、できるだけ早期に村社会福祉協議会と協議を重ね、協定締結及び正式な福祉避難所の設置に向けて村内福祉事業所と協議を進めていきたいと思っています。

提 早急に村内福祉事業所と協議して、社協だけではなく村内数か所に福祉避難所を設置することを望みます。福祉避難所の設置に関しては配慮を要する方が利用することから、行政職員だけでなく社会福祉法人等の専門職の配置も必要になってくると思います。



大城 節子 議員

避難道路について

質 12月の定例会で、通称学校ヤマグラーを利用して子供達の避難路を造ってもらえないかとの質問に、津波警報発令時の高台避難路として考えていると答弁いただきました。当有地は、村有地、民有地を含む地籍、県の保安林指定等があり許可等の事務確認を行いながら事業を推進していければと考えていると答弁されたのですが、協議はされたのか。進捗状況を伺う。

答 総務課長(宮平 寛)

当初簡易的な整備を想定して進めていました。土地の形状で、進入路の選定等、整備をする上で慎重に進めていく必要があると考えています。現在、実際に専門業者とも調整は進めています。まだ具体的な工法は決定していません。村有地のみで考えた場合、

仲泊校、山田校につきましては、業者に発注し本定例会開会日であります9月4日に完了したところです。

防災無線について

質 仲泊の防災無線は何を放送しているのかわからないとの苦情があり、最近では公民館の屋上に設置できないかという方もいます。前回の答弁で、公民館の構造や電波障害等により移設できないとの事で納得はしたのですが、一部の地域で聞こえづらいつつ問題について、早急に設置方法、新たにスピーカーの取り付け等を考慮し整備を進めていければと考えているとの答弁でしたが、協議されたのか伺う。

答 総務課長(宮平 寛)

現在、既存の防災無線子局、仲泊団地付近になるのですが、そちらにスピーカーの増設というところで、発注済です。



護岸沿いの木の剪定について

質 仲泊の護岸沿いの道は、区民や区民外のウォーキング道、まれに車道として使用されていますが、海浜に自然に生えたユウナやワフディーサーの木の枝が伸びて道を塞いでいる状態です。台風時には民家の風よけになっていますが、区内の道幅が狭い当区で緊急車両の出入り口となっており、ゼブラゾーンも引かれています。緊急車両がスムーズに通ずるには支障をきたすと思いますが、木々の剪定について伺う。

答 建設課長(屋良 朝也)

護岸沿いの道は、建設課としても剪定は行っていますがウォーキング道とか台風時の風よけにもなっているということもありまして、幾らか陰も残さないといけないと思っています。一番大事なのは緊急車両の通行の妨げにならないようにしたいと思い、区と調整しながら剪定をしていきたいと思っています。



台風6号被害について



當山 直彦 議員

質 個人、地域を巻き込んだ防災の徹底が必要だと思いますが、当局の見解を伺う。

答 総務課長(宮平 寛)

阪神淡路大震災時、約98%近くが自助・共助により助けられたというデータもあるように、個人、地域を巻き込んだ防災の徹底というのは重要であると考えます。

提 自分の命は自分で守る「自助」、地域で協力し合う「共助」の具体的な取り組みを防災士など専門家から学び機会や、また避難訓練の仕方なども専門的知見からしっかりと評価・指導・アドバイスなどをいただく機会があれば防災意識は数段上がるのかと思います。そこを当局が主導して取り組んでほしい。

地域公益活動推進協議会について

質 令和5年3月の定例会一般質問で、恩納村の福祉の「核」となる組織だと考え、早急な設置を求めましたが協議会設置に関する当局の現在の取り組みを伺う。

答 福祉課長(石川 司)

現状未設置の状況であります。令和5年度の取り組みについては、社会福祉法人の連携を目的として小規模法人ネットワーク化事業を新規に展開し、行政と村社協などの社会福祉法人等と共同で推進し、同協議会へ結びつけたらと考えています。

質 防災に関する一連の質問に対して村長の見解を伺う。

答 村長(長浜 善巳)

福祉避難所について、早い時期に協定締結及び正式な福祉避難所の設置に向けて、村内福祉事業所と協議を進めていきたいと思っています。それと地域公益活動推進協議会については行政と社協などの社会福祉法人と協働で推進し、同協議会へ結びつけていけたらと考えているところです。日頃から防災活動等に取り組むことで、地域の防災力の向上を図りながら誰もが安全、安心で快適に暮らせる村づくりに取り組んでいきます。

提 早急に村内福祉事業所と協議して、社協だけではなく村内数か所に福祉避難所を設置することを望みます。福祉避難所の設置に関しては配慮を要する方が利用することから、行政職員だけでなく社会福祉法人等の専門職の配置も必要になってくると思います。



提 自分の命は自分で守る「自助」、地域で協力して助け合う「共助」を徹底してやっていく必要があると感じました。被災によって誰一人亡くならない恩納村、防災に強い恩納村、そして誰もが安心して住める恩納村を共に作っていきましょ。